



2021年8月10日

各 位

会 社 名 ショーボンドホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 岸本 達也
(コード： 1414、東証第1部)
問合せ先 取締役経営企画部長 関口 恭裕
(TEL. 03-6892-7101)

「中期経営計画（2022年6月期～2024年6月期）」の策定について

当社は、2022年6月期を初年度とする「中期経営計画（2022年6月期～2024年6月期）」を策定しましたので、お知らせいたします。

わが国のインフラメンテナンス市場は、2013年に取りまとめられた「インフラ長寿命化基本計画」に基づいて2015年からスタートしたNEXCO3社の「大規模更新・修繕事業」の本格的な進捗や2018年に「国土強靱化基本計画」の改訂とあわせて閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」の着実な実施により、過去数年間でその規模が大きく拡大してきました。当社では、創業以来60年以上にわたり「メンテナンス専業」として培ってきた技術力、施工管理ノウハウ等を武器に大型工事への対応力強化を図ることで、過去3年間は大幅な増収増益と株主還元の充実を実現することができました。2021年度からは、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が進められています。「激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策」、「予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策の加速」、「国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進」の各分野について、取組の更なる加速化・深化を図ることが目的とされています。本計画の3年間においても、インフラメンテナンス市場の受注環境は引続き良好な状況が継続するものと想定しています。

こうした環境認識のもと、新しい中期経営計画では「ショーボンドらしさを極める」を基本方針として、利益の持続的成長と企業価値の向上に努めてまいります。「ショーボンドらしさ」とは、事業面では「工事施工力」、「技術開発力」、「製品販売力」の3つ、経営面では「収益力」、「財務健全性」、「株主還元」の3つと定義しました。メンテナンス市場の拡大により、今後もゼネコンはじめ参入業者が更に増加し、受注競争が厳しくなる可能性も否定できません。今こそ当社の強みに磨きをかけ、更なる成長加速のステージに向けた体制づくりを行う必要があると考えています。

一方、新型コロナウイルス感染症拡大やデジタル化の加速、脱炭素社会の実現に向けた動きなど、わが国の社会経済情勢は過去に例を見ない速さで大きく変化しています。当社では、このような経営環境の変化に対応するために「サステナビリティ方針」を策定いたしました。当社が考えるマテリアリティ（重要課題）に基づく取り組みを継続的に実施し、中長期的な企業価値の向上と持続的な社会の形成に貢献してまいります。

今後とも、なお一層のご指導とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

1. 中期経営計画の基本方針

▶ ショーボンドらしさを極める

- ① 組織力強化による大型工事の更なる取り込み
- ② 他社に先駆けた新技術開発と新たな製品販売戦略への挑戦
- ③ 市場変化に対応できる人材育成と生産性向上による受注拡大
- ④ 収益性・財務健全性の両立と株主還元の実現
- ⑤ ESG 課題への取り組みと SDGs への貢献

2. 財務目標

▶ 利益の持続的成長と企業価値の向上

売上高の更なる増加と高水準の営業利益率を維持することにより、最終年度の営業利益目標を 175 億円とし、3 年間で 10%以上の持続的成長を目指します。資本効率を重視した経営を継続して、自己資本利益率（ROE）は中計期間を通して 12%以上を維持します。

	2021 年 6 月期実績	2024 年 6 月期目標
売上高	800.7 億円	875 億円
営業利益	157.3 億円	175 億円
当期純利益	113.4 億円	120 億円
ROE	13.0%	12%

3. 資本政策

▶ 3 年間で 100 億円の自己株式取得

継続的・安定的な利益還元としての配当については、配当性向 50%以上を維持することで一株当たり配当額の着実な増加を目指します。加えて、3 年間で 100 億円の自社株買いを実施し、総還元性向 75%以上を維持します。政策保有株式については、時価ベースで 20%を売却することにより、純資産に対する比率を低減します。

	2021 年 6 月期実績	2024 年 6 月期目標
配当性向	50.1%	50%
総還元性向	50.1%	75%

以 上



中期経営計画

2022年6月期～2024年6月期

ショーボンドホールディングス株式会社

2021年8月10日



0	事業環境・前中計振り返り	p.2
---	--------------	-----

中期経営計画

1	経営理念・マテリアリティ	p.9
---	--------------	-----

2	基本方針	p.11
---	------	------

3	財務目標	p.12
---	------	------

4	資本政策	p.13
---	------	------

5	主な項目	p.14
---	------	------

6	事業戦略・基盤強化	p.16
---	-----------	------

7	主な施策	p.18
---	------	------

8	グループ事業戦略	p.24
---	----------	------

Appendix

サステナビリティ方針	p.26
------------	------

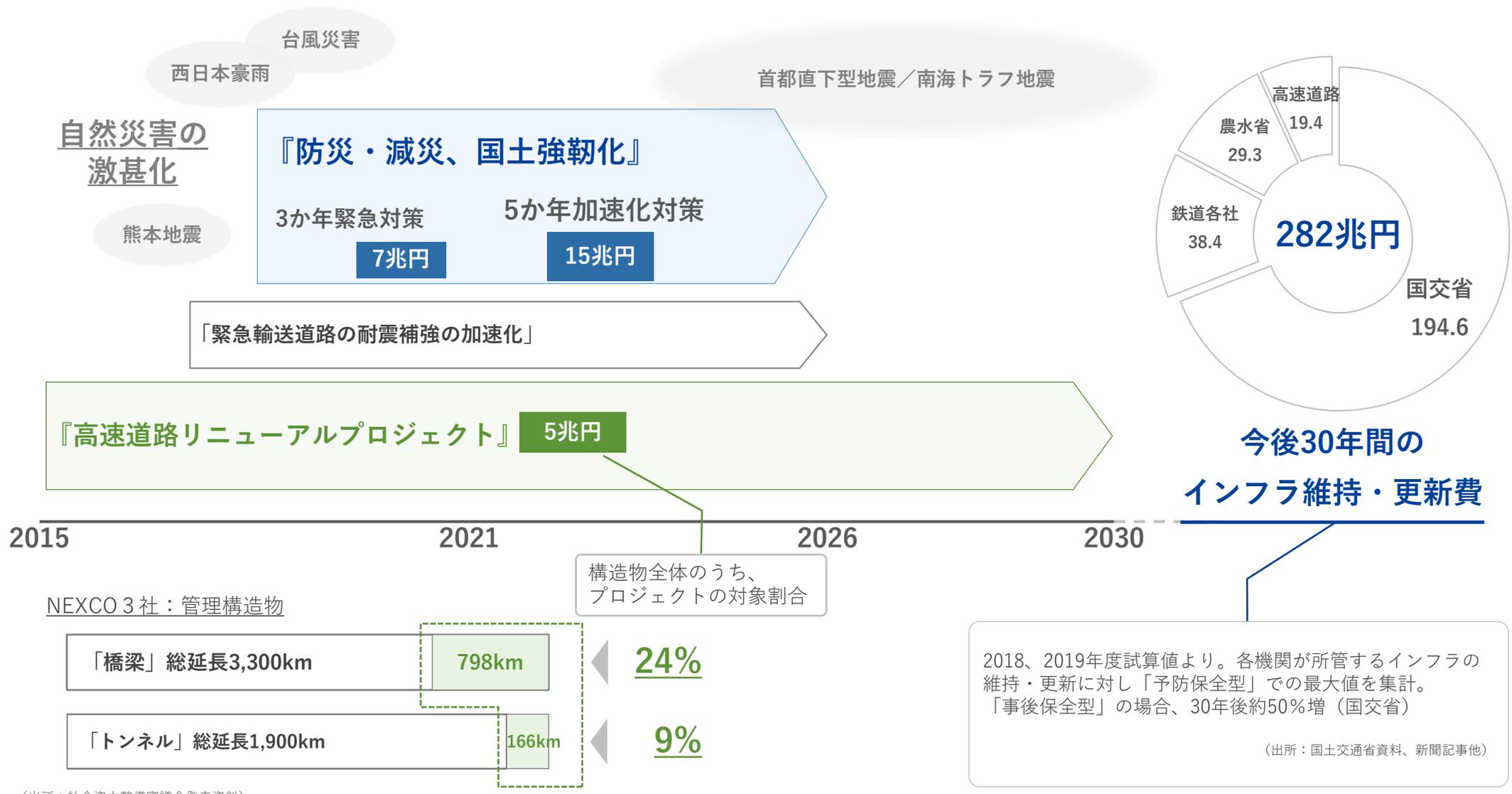
補修工学研究所（研究環境と研究成果）	p.29
--------------------	------

高速道路の維持管理と更新について	p.31
------------------	------

国内道路インフラの状況	p.32
-------------	------

当社の製品・工事例	p.34
-----------	------

高速道路リニューアルプロジェクトの工事例	p.36
----------------------	------



（出所：社会資本整備審議会発表資料）

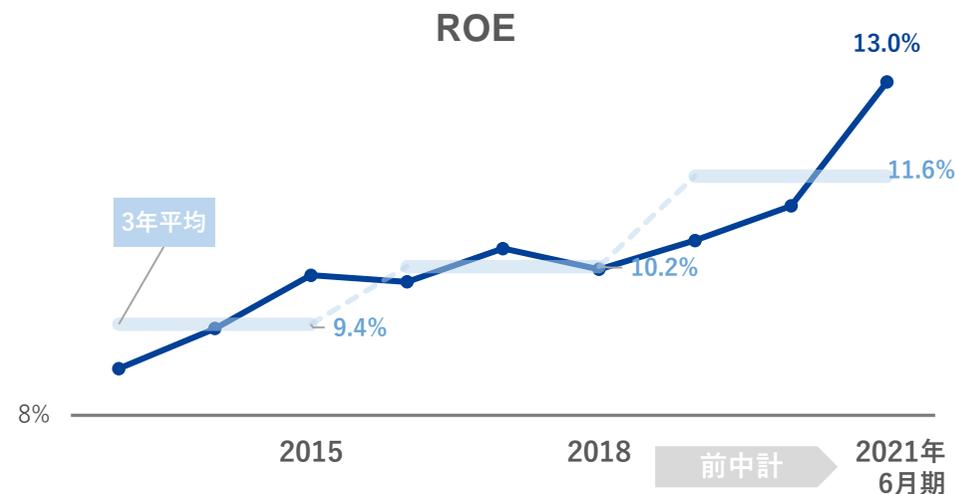
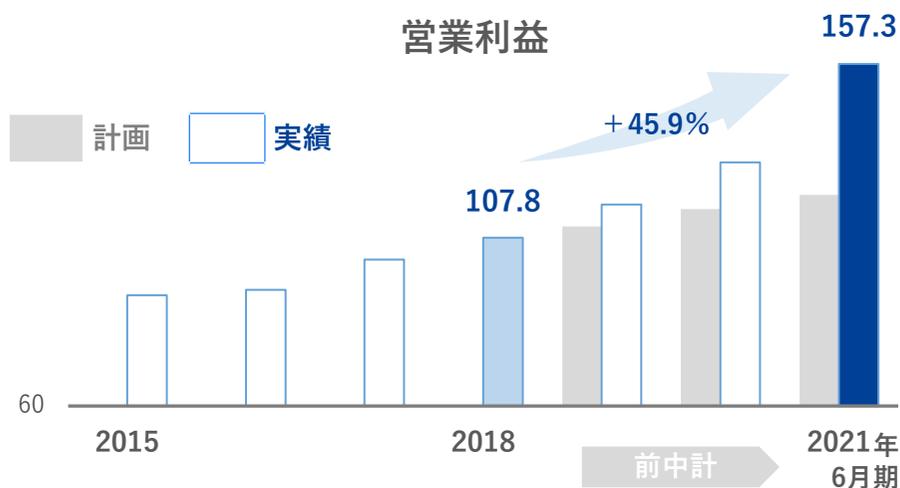
0 前中計の振り返り



	2018年 6月期	2021年 6月期		計画
売上高	596.8 億円	800.7 億円	+34.2%	670億円
営業利益	107.8 億円	157.3 億円	+45.9%	120億円
営業利益率	18.1 %	19.6 %	+1.5%	18%
当期純利益	73.0 億円	113.4 億円	+55.3%	85億円
ROE	10.2 %	13.0 %	+2.8%	10%
配当性向	46.1 %	50.1 %	+4.0%	50%

大幅な増収増益と株主還元の充実

過去3年間は、高速道路会社の「大規模更新・修繕事業（リニューアルプロジェクト）」に加えて「国土強靱化のための3か年緊急対策」もあり、インフラメンテナンス市場の規模が大きく拡大しました。当社では、大型工事受注に対応した社内体制を構築して採算重視の選別受注を徹底したことで、売上高、営業利益ともに大幅な伸びを実現しました。収益性についても、営業利益率19.6%、自己資本利益率（ROE）13.0%と高い水準となりました。

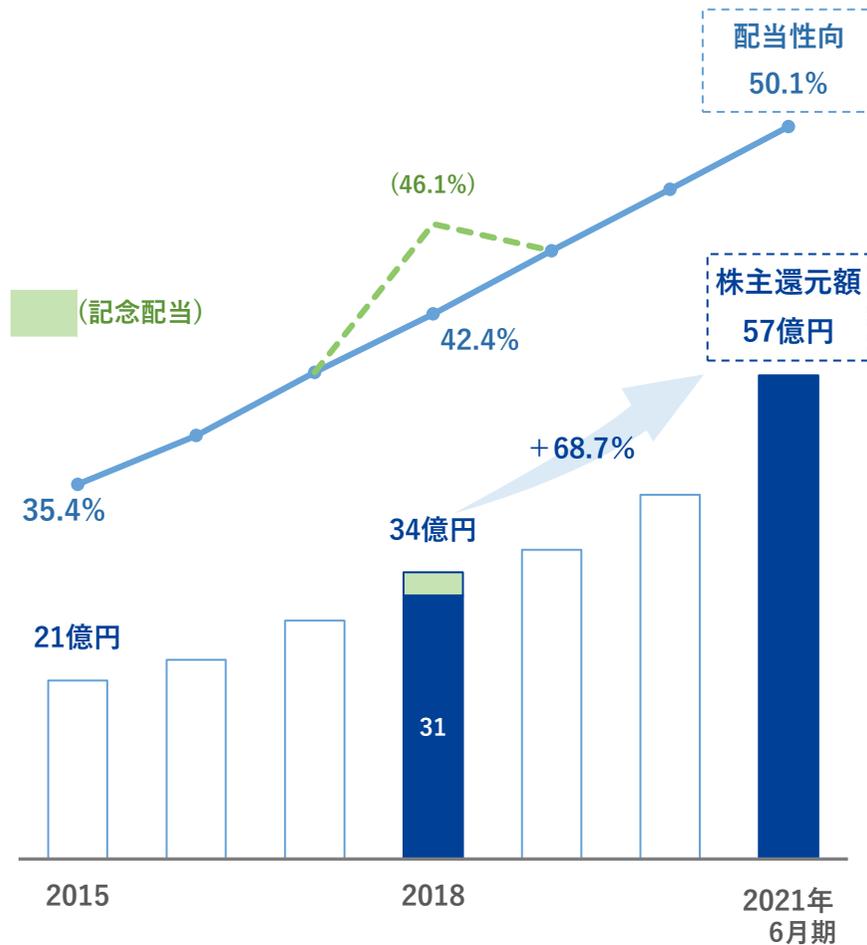


0 前中計の振り返り



「株主還元」

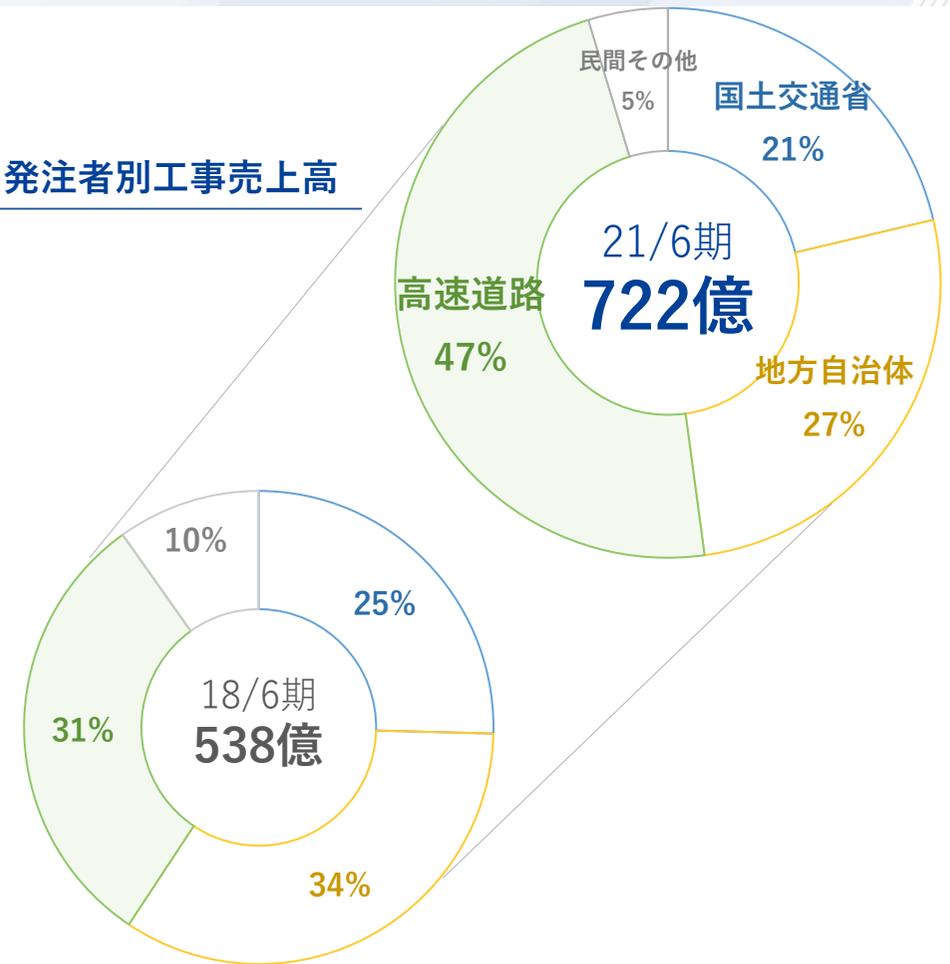
配当性向を毎期2.5%ずつ引き上げ、最終年度は50.1%になる見込みです。過去3年間の株主還元額は、当期純利益の増益と合わせて68.7%の増加となりました。



「売上高」

高速道路会社からの大型工事の受注獲得に注力し、工事売上高に占める高速道路会社の比率を47%まで引き上げました。

発注者別工事売上高

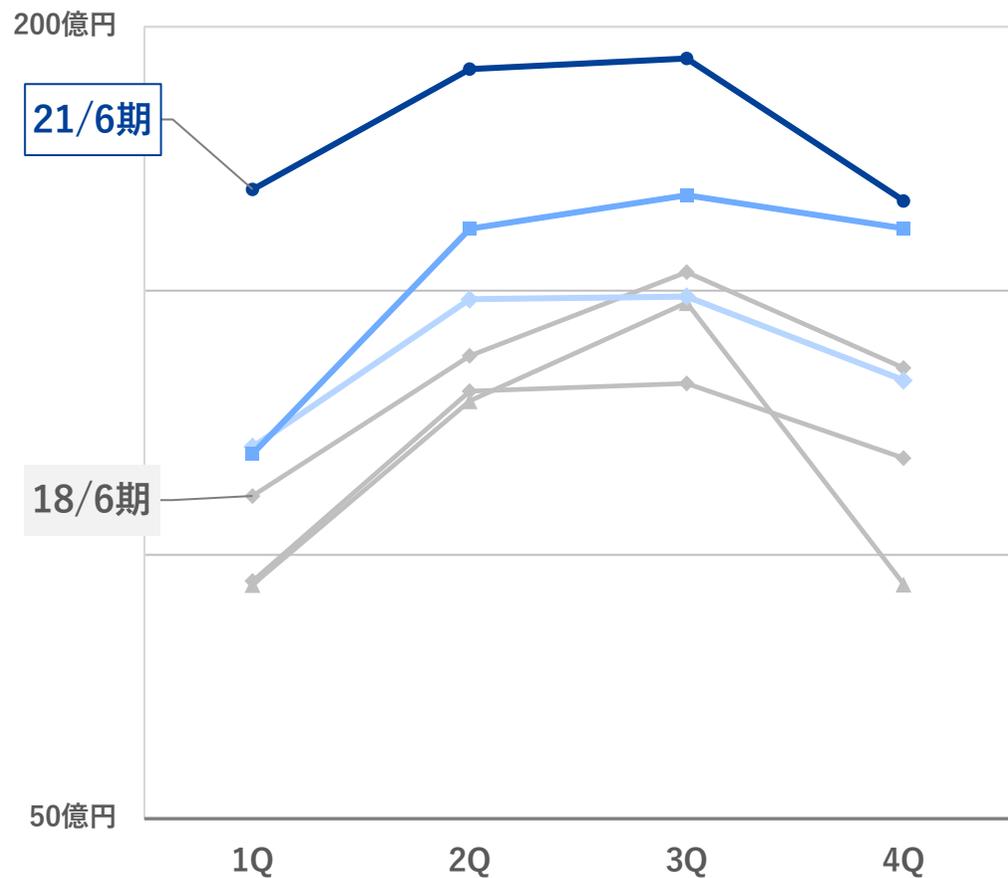


0 前中計の振り返り



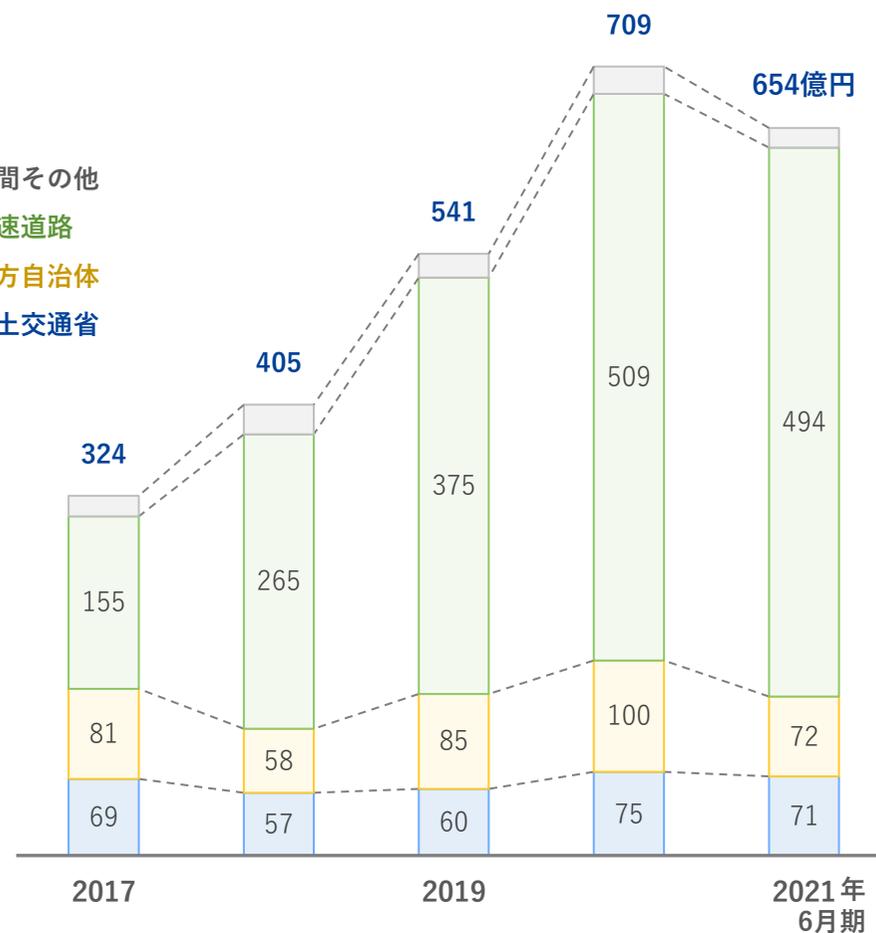
「平準化」

大型工事の施工が順調に進捗したことで四半期別工事売上高を平準化させることができ、年間の工事売上高を大幅に増やすことができました。



「受注残」

高速道路会社を中心に大型工事の受注を増やすことで期末の受注残を大きく積み上げることができ、経営の安定化を図りました。





事業戦略 5つの主な施策 ～メンテナンス業界のトップランナーとして挑戦し続けるために～

1

最適受注・最適稼働による
採算を重視した安定経営

総括

採算を重視した選別受注を徹底しつつ、大型工事から中小型工事まで受注バランスを考慮して四半期別工事売上高の平準化を実現しました。期末受注残高も着実に積み上げ経営の安定化が図れました。

2

高速道路会社の大規模更新・大規模修繕工事の
受注態勢強化

東西カンパニー制への移行により、支社の枠を超えた広域で効率的な受注戦略を導入したことで、高速道路会社からの大型工事受注が大幅に増加しました。工事売上高に占める高速道路会社の比率は47%まで上昇しています。

3

グループ会社、地域建設会社との連携強化
による地方自治体への対応強化

激甚化する自然災害などにより受注環境の地域間格差が拡大。国内拠点の一部統廃合やショーボンド建設と地域子会社（化工グループ）間での人員最適配置など自治体への対応力強化を実施しました。

4

国内・海外で競争力のある製品の
研究開発と販売体制強化

2019年4月に三井物産株式会社との合弁会社SHO-BOND&MITインフラメンテナンス株式会社（SB&M）を設立。2020年末にはタイ国に現地パートナー企業との合弁会社を設立し、工法や製品の海外販売事業を開始しました。

5

メンテナンス専門としての強みを活かせる
他社提携と成長投資

土木・建築の各分野において、業務単位での協働に関して他社との幅広い協議を継続しているものの、業務提携や成長投資に至るまでの案件はありませんでした。



基盤強化 5つの主な施策 ～持続的成長を支える「人」と「技術」～

1

「技術」・「安全」・「品質」を高める
体制強化と人材増強

総括

過去3年間で社員数は97人増加しました。工事担当はもとより技術担当、安全管理担当などにも配置を増やし社内体制を強化しています。大型工事現場が年々増加しており、安全衛生管理は重要な経営課題となっています。

2

老朽インフラ各分野の特有ニーズ把握と
製品・工法の研究開発

道路、鉄道、港湾、建築などの分野において3年間で10件の製品開発を計画し、そのうち9件の開発を完了しました。また、研究所内に無機研究棟を新設して中小規模橋梁補修用の廉価版工法の研究を進めています。

3

i-Constructionへの積極的な取組みによる
生産性向上

AIによる補修工法選定システム、安全带使用検出システムの開発に着手しました。AIによる現場作業員健康管理システムの開発検討も進めています。

4

働き方改革の推進と
「4週8閉所」の実現

四半期毎に労働時間や休日取得状況を経営会議報告するなど、全社的に働き方改革に取り組んでいます。年間休日100日未満の社員数は全体の1%未満まで減少しました。2020年度は工事現場の「4週6閉所」実施の割合が98%、「4週8閉所」では73%となりました（日建連報告ベース）。

5

ESG課題への取り組みと
コーポレートガバナンスの更なる高度化

指名・報酬等諮問委員会、内部統制委員会、資産運用委員会を新たに設置するなどガバナンス強化に取り組みました。ISO9001（品質）に加えてISO14001（環境）、ISO45001（安全衛生）の認証を取得しました。また、ショーボンド建設では「子育てサポート企業」として「くるみん」の認定を受けています。

中期経営計画



グループ企業理念

「社会資本を良好な状態で次世代に引継ぐ」との使命感のもと、
メンテナンス業界のトップランナーとしての高度な技術開発力で、
豊かで安全な社会の実現に貢献する。

めざし続ける姿

メンテナンス専門としての「使命」を果たす

化学技術と土木技術の融合により
新材料・新工法を開発する
「技術のショーボンド」

収益性・効率性
重視の経営

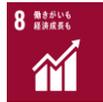
マテリアリティ

組織力を活かした
総合メンテナンス



社会への貢献

技術開発を通じた
生産性の向上



内部の取り組み

健全な
ガバナンスの強化



持続可能な
都市づくりへの貢献



社会への貢献



ショーボンドグループは、社会情勢やステークホルダーからの期待を踏まえ、4つのマテリアリティを特定しています。

マテリアリティとは「重要課題」のことであり、当社グループが社会課題の解決と企業価値の向上を両立させながら、ステークホルダーとともに持続的に成長していくために、優先的に取り組むべき課題を示したものです。これら4つのマテリアリティには、「内部の取り組み」に関わるものと、「企業活動を通じて社会に与える影響」に関わるものがあり、これらに総合的に取り組むことが、SDGs 達成への貢献とグループ企業理念の実践に繋がると考えています。当社グループは、これからも事業活動を通じてこれらのマテリアリティに継続的に取り組み、中長期的な企業価値向上と持続可能な社会の形成に貢献していきます。

4つのマテリアリティ

企業活動を通じて社会に与える影響

内部の取り組み

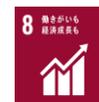
組織力を活かした総合メンテナンス

あらゆる規模のあらゆるメンテナンス工程に対して、お取引先様との連携と
グループ各社の総合力で対応し、社会資本整備に貢献する



技術開発を通じた生産性の向上

化学技術と土木技術の融合による**新技術の開発**と**人材の育成**を通じて、高い生産性を実現する



健全なガバナンスの強化

健全で透明性の高いガバナンス構築を通じて、すべての**ステークホルダーと良好な関係**を維持する



持続可能な都市づくりへの貢献

社会資本のメンテナンス事業を通じ、環境に配慮した、**持続可能な都市開発**に貢献する





ショーボンドらしさを極める

- 1 組織力強化による大型工事の更なる取り込み
- 2 他社に先駆けた新技術開発と新たな製品販売戦略への挑戦
- 3 市場変化に対応できる人材育成と生産性向上による受注拡大
- 4 収益性・財務健全性の両立と株主還元の充実
- 5 ESG課題への取り組みとSDGsへの貢献

技術力

- | 新工法・製品開発
- | 研修センター活用

施工力

- | 受注戦力の増強
- | 施工能力の維持

販売力

- | SB&M本格稼働
- | 販売チャネルの多様化

メンテナンス専業

健全性

- | 自己資本比率：
82%程度

収益力

- | 営業利益率：19%以上
- | ROE：12%以上

株主還元

- | 配当性向：50%以上
- | 総還元性向：75%以上

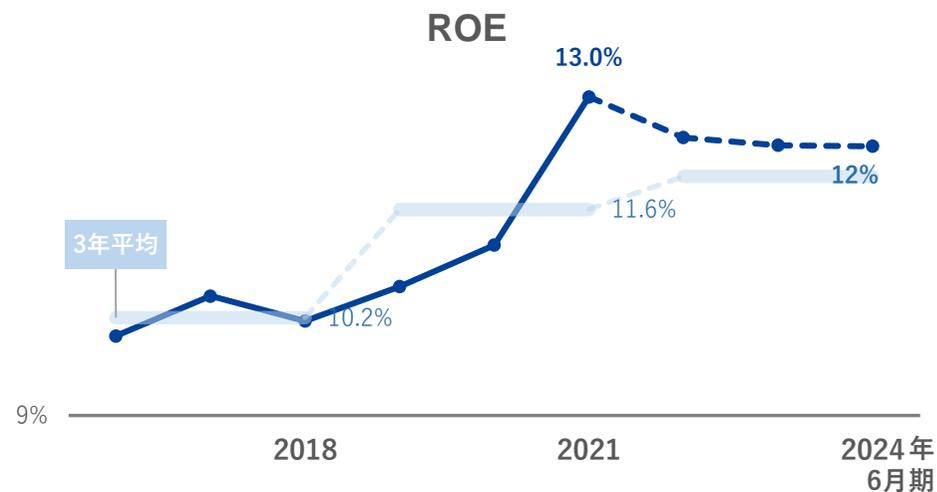
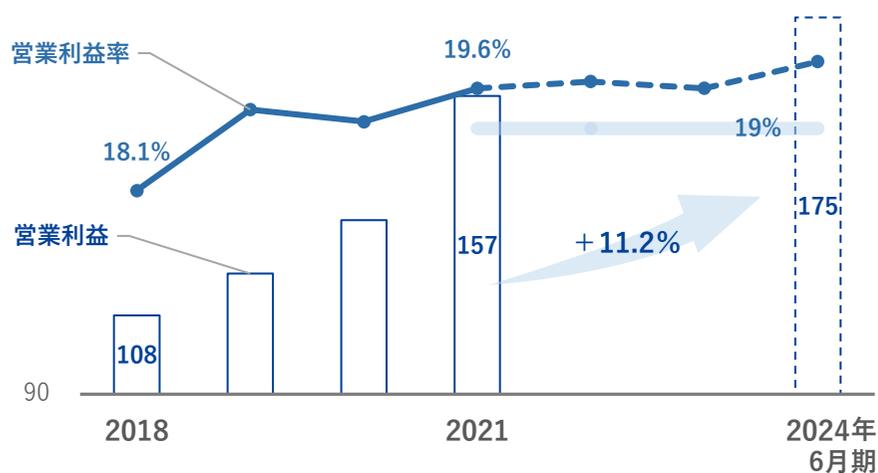




	2021年 6月期	2024年 6月期	
売上高	800.7 億円	875 億円	+9.3%
営業利益	157.3 億円	175 億円	+11.2%
当期純利益	113.4 億円	120 億円	+5.8%
ROE	13.0 %	12.0 %	
配当性向	50.1 %	50.0 %	
総還元性向	50.1 %	75.0 %	

利益の持続的成長と企業価値の向上

売上高の更なる増加と高水準の営業利益率を維持することにより、最終年度の営業利益目標を175億円とし、3年間で10%以上の持続的成長を目指します。資本効率を重視した経営を継続して、自己資本利益率（ROE）は中計期間を通して12%以上を維持します。自社株買いを含む株主還元の更なる充実と合わせて企業価値の向上に努めます。



4 中期経営計画 | 資本政策



3年間で100億円の自己株式取得

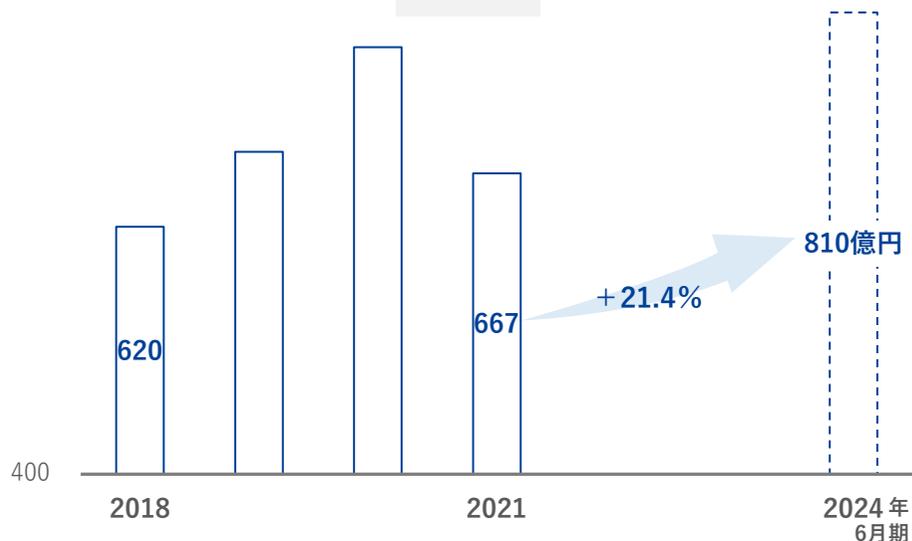
継続的・安定的な利益還元としての配当については、配当性向50%を維持することで一株当たり配当額の着実な増加を目指します。加えて、3年間で100億円の自社株買いを実施し、総還元性向75%を維持します。政策保有株式については、時価ベースで20%を売却することにより、純資産に対する比率を低減します。



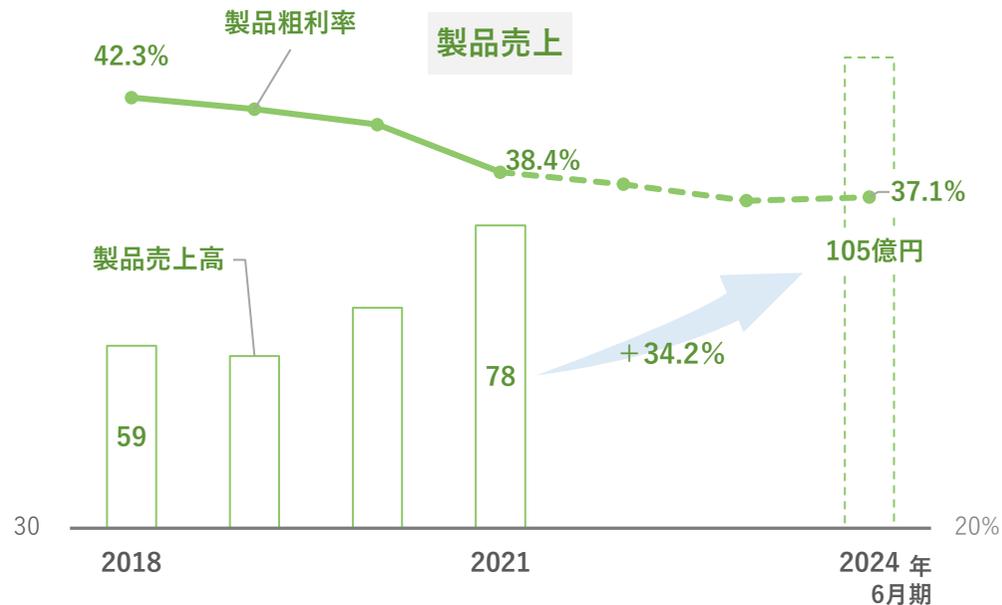
5 中期経営計画 | 主な項目



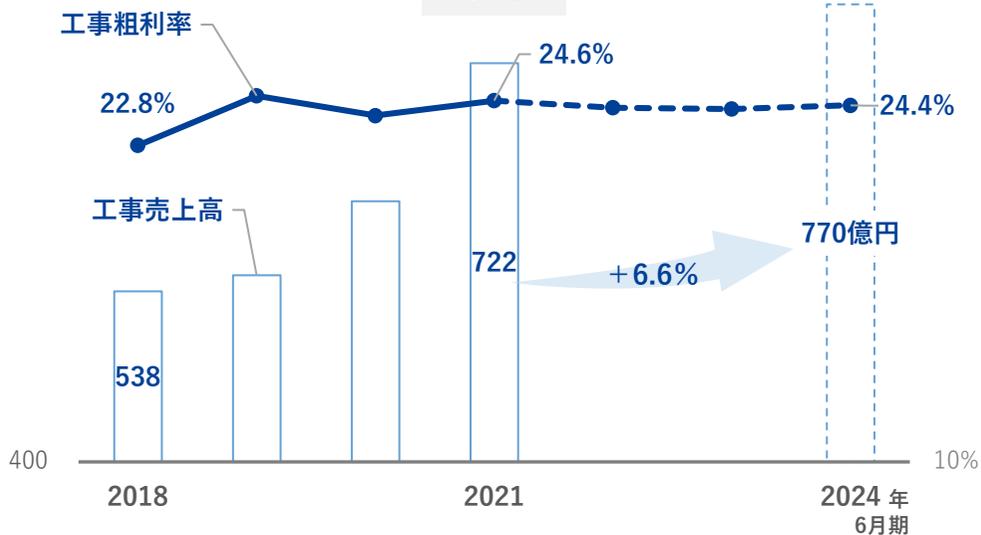
工事受注



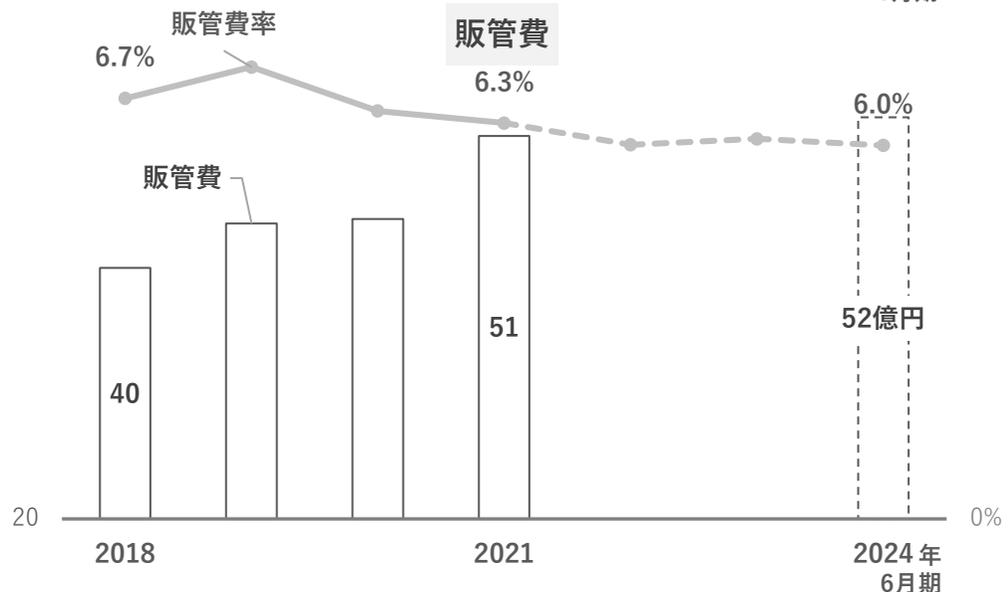
製品売上



工事売上



販管費

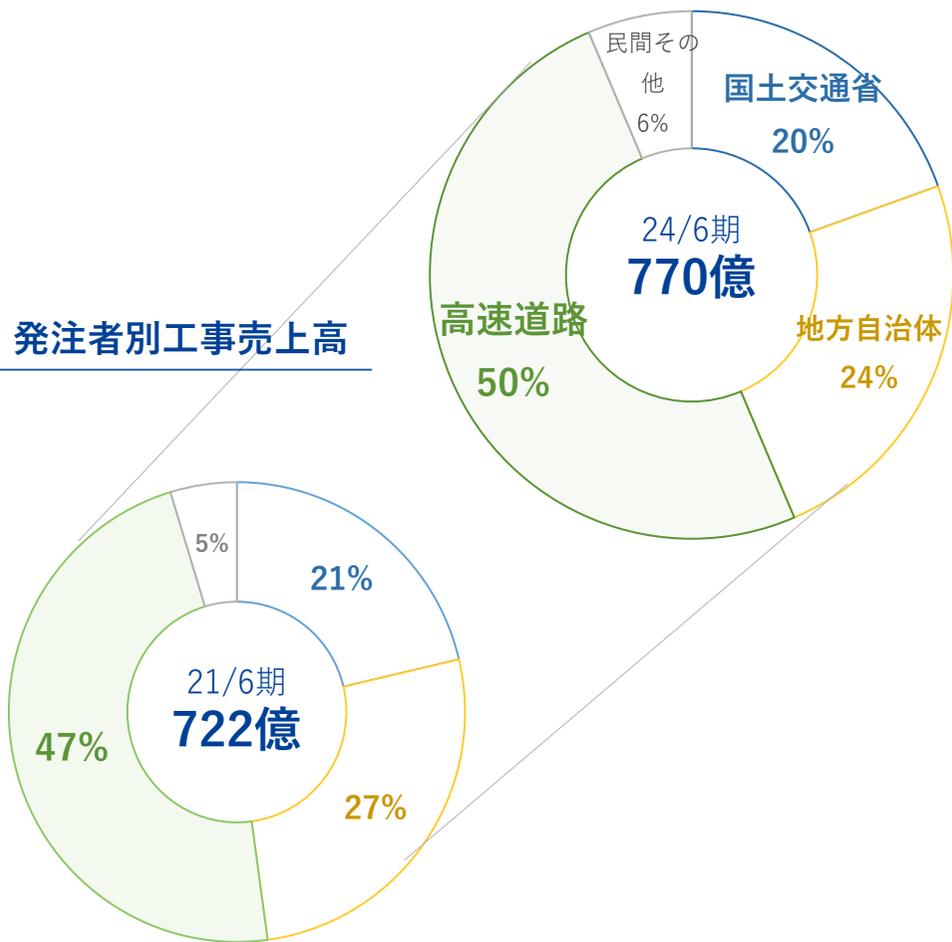


5 中期経営計画 | 主な項目



大型工事の更なる取り込み

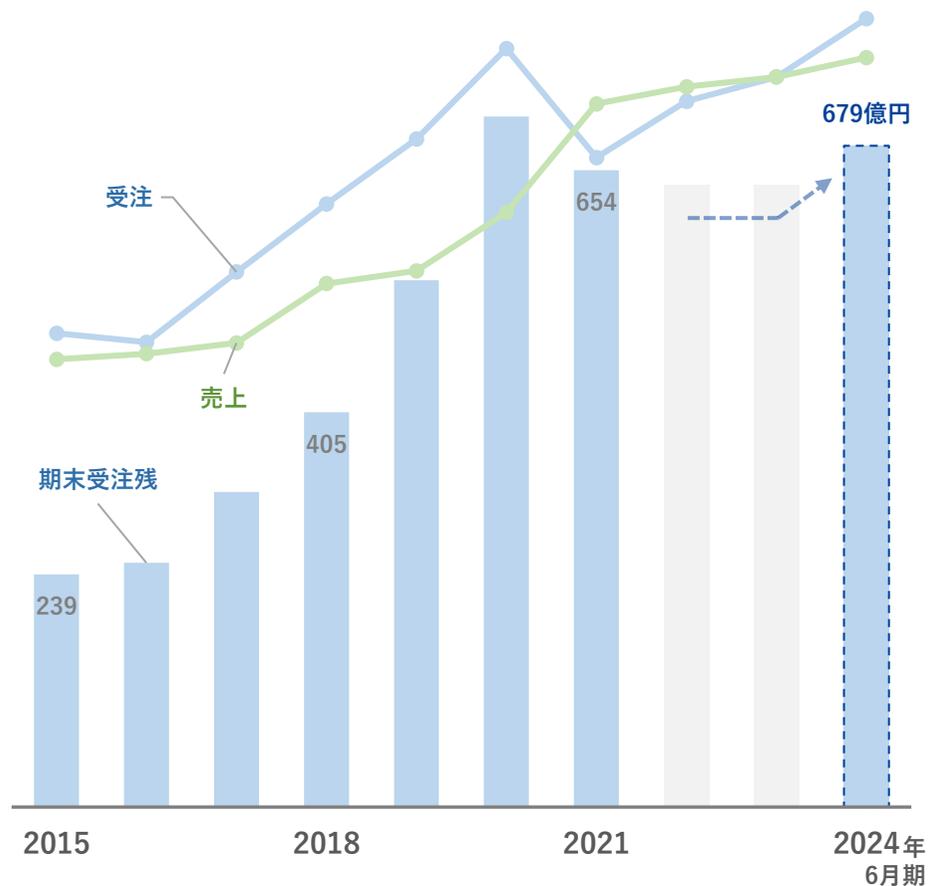
東西カンパニーによる各種施策により大型工事への対応力を更に強化し、工事売上高に占める高速道路会社の比率は50%以上を目標とします。大型工事の取り込みによる「1人当たり生産性」の向上を継続します。



受注残高

高水準の工事売上高を継続しつつ、それに見合う新規受注を積み上げることで、受注残高を維持します。最終年度には受注額が工事売上高を上回り、更なる成長加速のステージが始まることを目指しています。

受注・売上・受注残 (工事)





1

東西カンパニー制を活用した 受注戦略の高度化

東西カンパニーにおける広域での技術者、協力会社の最適配置や購買戦略の高度化により、受注額の拡大と選別受注による利益率の維持・改善を目指します。

施工力

2

大型工事の更なる取り込みと 施工能力の強化

工事売上に占める高速道路会社のシェアを50%以上まで拡大するためには、大型工事に対応できる人材育成と協力会社を含めた施工能力の強化が必須になります。社員教育・研修の拡充や協力会社の維持・拡大のため各種施策を実施します。

施工力

3

S B & Mを軸とした 新たな製品販売戦略への挑戦

三井物産との合併会社であるSB&Mを軸に国内外のメンテナンス市場にアクセスし、国内はもとよりアジア、北米など海外市場での実績を作ります。

販売力

4

グループ会社、他社との連携強化 による協働の推進

当社グループの営業拠点のない地域における業容拡大やSB&Mによる道路関連以外のインフラ市場への取り組みを推進します。キーナテックではウォータージェット事業を本格稼働させ、ショーボンド建設とのシナジー効果を狙います。

施工力

5

予防保全型インフラメンテナンス を支える新技術の開発

「国土強靱化のための5か年加速化対策」に盛り込まれた予防保全型インフラメンテナンスは当社の得意分野であり、強みを活かして他社に先駆けた新技術を開発します。

技術力

6 中期経営計画 | 基盤強化



1 市場変化に対応できる人材育成と受注戦力の増強

受注戦力の増強と施工品質の維持を両立すべく、採用と育成のバランスを重視した人事運営を目指します。3年後には社員数を1000人程度まで増やす計画としています。



2 経営環境の変化に則した人事制度改革

働き方改革、シニア人材の活躍推進、人事評価体系の見直し等、経営環境の変化に則した人事制度改革を実施します。



3 強固な安全文化の確立と現場教育の徹底

外部コンサルの知見を取り入れ、社員のみならず協力会社を含めた安全教育を徹底し、強固な施工体制を構築します。つくば研修センターでは、体験型の安全衛生教育を取り入れます。



4 DX推進による生産性向上

新設したDX推進室を中心に、IT技術を活用した生産性向上を推進します。設計・施工現場での効率化・省力化や安全衛生レベルの向上を目指します。



5 ESG課題への取り組みに向けた体制構築

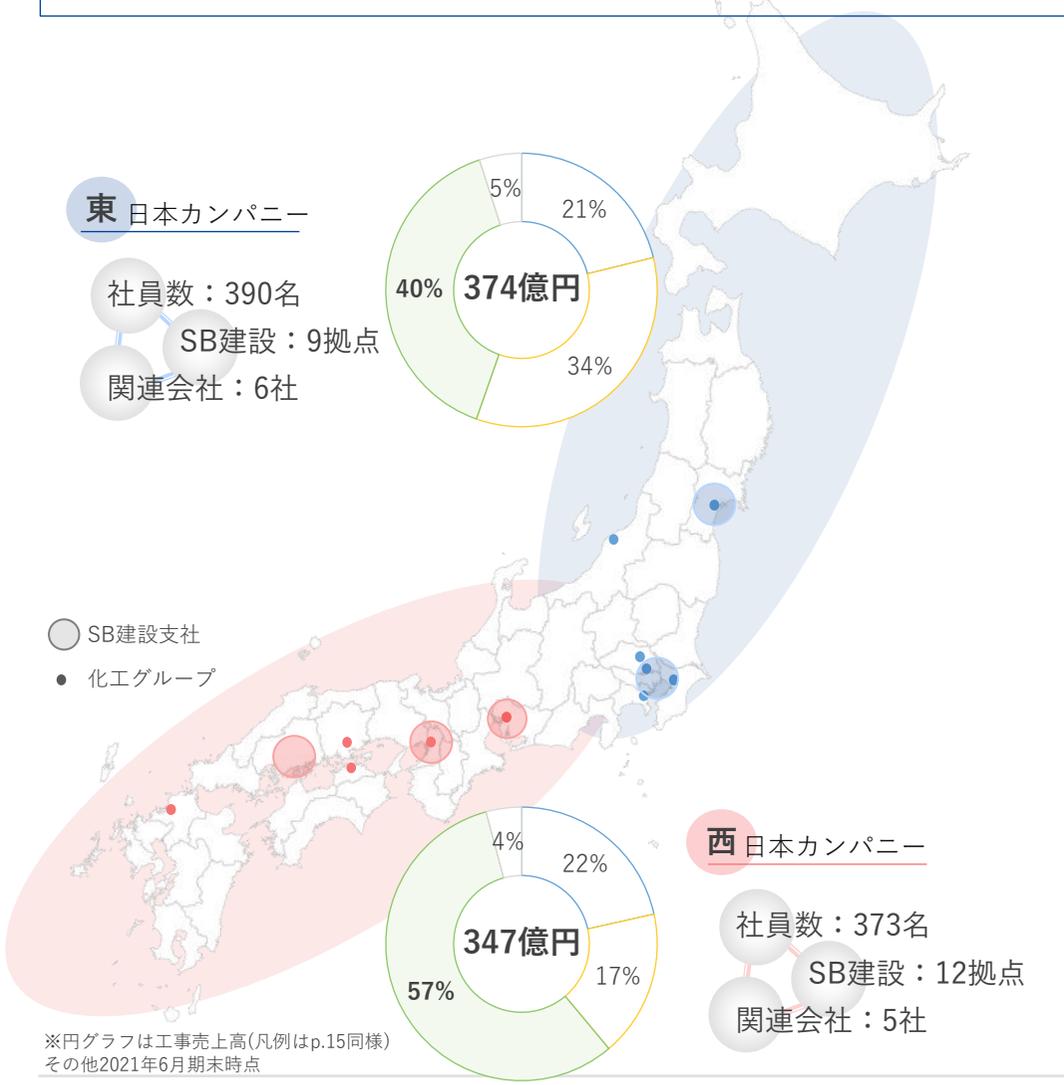
ESG課題への取り組みとSDGsへの貢献を推進するため、新たにESG推進室を設置しました。グループ横断的な活動の推進と非財務情報の発信力改善を担っていきます。



7 中期経営計画 | 主な施策

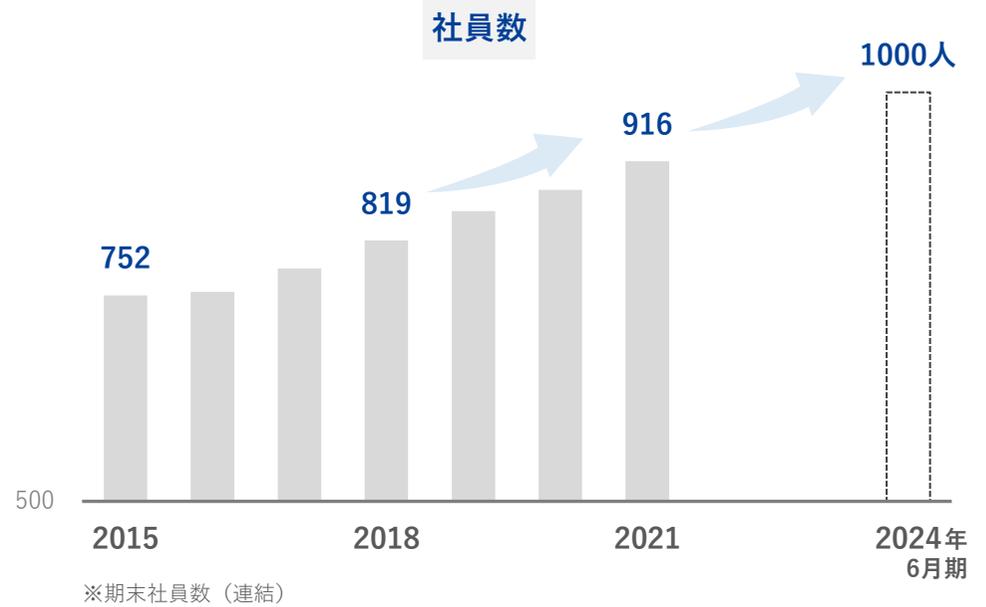


施工力 東西カンパニー制を活用した受注戦略の高度化 大型工事の更なる取り込みと施工能力の強化



東西カンパニーによる主な施策

- | 大型工事検討会議の充実と安全管理の強化
- | 国・自治体工事の安定受注による稼働の平準化
- | 協力会社の広域化による施工能力の確保
- | 地域密着型営業による製品販売力の強化
- | グループ会社間の戦略的人事ローテーション
- | 研修、見学会、実務講座などの開催による現場力の向上
- | Construction Information Modeling(CIM)に対応できる技術者育成

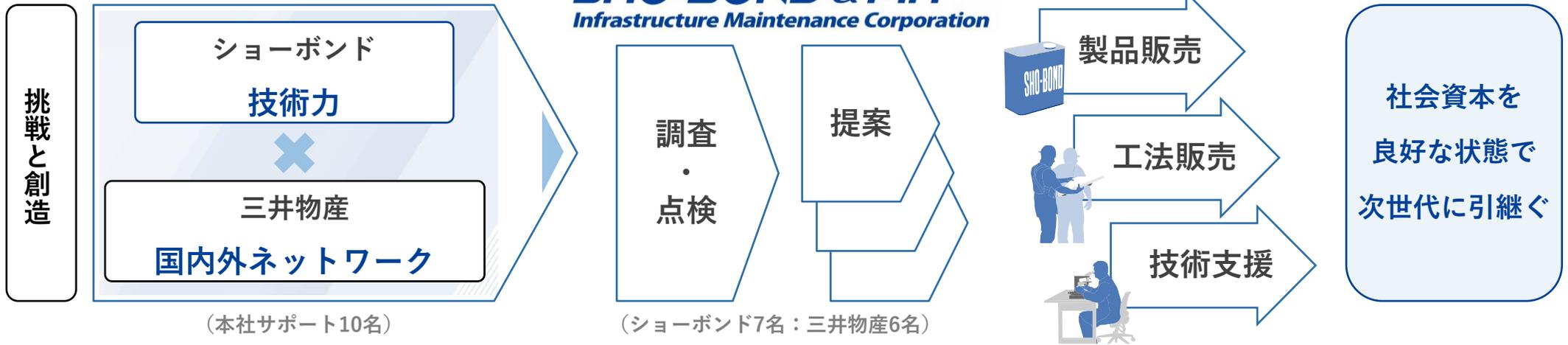


7 中期経営計画 | 主な施策



販売力 SB & Mを軸とした
新たな製品販売戦略への挑戦

国内外の顧客/管理者が抱える
課題解決へ向けたアプローチ





販売力
タイ国合併会社の紹介

SCG社 (Siam Cement Group)
 ■セメント・建材/化学/紙・パルプをコアとした複合企業

CPAC社 (The Concrete Products and Aggregate Co.,Ltd)
 ■生コンクリート販売・施工

51%

CPAC SB&M Lifetime Solution Co., Ltd.



- 主要ターゲット
- | 高速道路
 - | 港湾施設
 - | 建築分野
 - | SCGグループ内施設 (プラント他)

49%

SHO-BOND & MIT
 Infrastructure Maintenance Corporation



なぜ、タイ・東南アジア

- | 日本から比較的近い
- | 日系企業も多く進出し、官民両面で域内の経済発展に貢献
- | 学会の交流も盛ん



基盤強化 ESG課題への取り組みに向けた体制構築

ESG推進室の設立

ショーボンドグループでは、様々な社会課題の中から、SDGs達成への貢献とグループ企業理念の実践に向けて優先的に取り組みべき課題として、4つのマテリアリティを特定しています。今般、マテリアリティに基づく取り組みを継続的に実施し、中長期的な企業価値の向上と持続可能な社会の形成に貢献するため、「サステナビリティ方針」を策定しました。（「Appendix」 p.26）

ESG推進室では、「サステナビリティ方針」の主な項目について、アクションプランやKPIを設定し、グループ内の関連部署と協力しながら課題への対応を進めます。その進捗や成果については、ウェブサイトや統合報告書などの形で情報開示していく予定です。



7 中期経営計画 | 主な施策



基盤強化

DX推進による生産性向上

DX推進室 テーマ毎にチームを結成し、DXを推進

営業部門

技術部門

管理部門

安全管理部門

東西
カンパニー

各部門が単独で進めてきたIT技術活用をテーマ毎に関連する本部、東西カンパニーと部門横断的なチームを作り、プロジェクトを進めていきます。

テーマ	施策
施工の生産性向上	<p>施工管理システム活用 施工管理書類の効率化、写真管理の効率化</p> <p>クラウドによる施工データの活用 蓄積データの活用、情報共有</p>
設計の生産性向上	<p>3DCAD導入によるBIM/CIM対応 設計図の3次元化と付属データの活用</p> <p>設計データの一元化システムの構築 設計データの全社共有活用</p> <p>AI診断技術の開発 画像から損傷診断～補修提案システム</p>
安全衛生レベルの向上	<p>危険作業時のウェアラブルカメラによる安全確認 離れた場所からの目視による安全確認</p> <p>安全管理支援アプリ導入による安全活動の向上</p>

メンテナンス専業として培ったきた経験をデータとして活用することで、設計・施工現場の効率化・省力化による生産性向上、安全衛生レベルの向上を目指します。

テーマ	施策
業務プロセスの生産性向上	<p>基幹システムとアプリケーションの連携による効率化とペーパーレス化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 決裁ワークフローシステムの導入 ・ キャッシュレス化の推進 ・ 請求書電子化システムの導入
社内情報の一元化による利便性向上	<p>社内情報プラットフォームの整備による利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社内ポータルサイトの刷新
人材教育の効率化	<p>WEB教育環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自社制作eラーニングの活用 ・ 自社制作動画の活用

業務管理と社内情報の各プラットフォームを整備し、各種システムを連動させる事で効率化・省力化による生産性向上を目指します。



技術力 施工力 つくば研修センターの新設

- 補修工学研究所の隣に研修センターを新設し、当グループ社員ならびに協力会社作業員等に対して、補修・補強技術の習得や安全衛生の体験学習をサポートします。
- 工事・技術では、足場架設や鋼材取付の体験実習と構造計算等の工事知識の習得のプログラムを設けます。
- 安全衛生では、安全知識の習得だけでなくVRによる危険作業の体験など新技術を活用した研修を目指します。

2021年10月
完成予定



2021年6月
施工状況



VRによる体験画面

技術力 無機研究棟の新設

- 断面修復、床版補修、予防保全をテーマに研究体制を強化し、全社的な無機材料への取り組みを推進します。
- 自治体の中小規模橋梁を廉価で簡易に補修できる工法の研究開発と製品化を充実させます。
- 国内基準に捉われない国際的に競争力のある補修材料の開発を目指します。

無機系 『道路橋床版の長寿命化』



高浸透性プライマー

CPJ-L打設

施工後の橋面

2種類の接着剤塗布と、低弾性ラテックス改質超速硬コンクリートの橋面舗装により、橋梁の長寿命化を実現します。

無機系 『施工性に優れる断面修復材』



施工状況

コテ仕上げ

厚さ

コテによる施工が楽々行えるポリマーセメント系断面修復材です。壁面で4cmも厚付けが可能です。プレミックスタイプのため、水を加えるだけで製造可能です。



SHO-BOND ショーボンドホールディングス

SHO-BOND ショーボンド建設

補修工学研究所



KKAKO 化工グループ



ショーボンドマテリアル



SHO-BOND & MIT
Infrastructure Maintenance Corporation

地域建設会社

パートナー企業

パートナー企業

高速道路会社

大規模更新・
修繕工事

大型工事

国土交通省

長寿命化工事
耐震補強工事

地方自治体

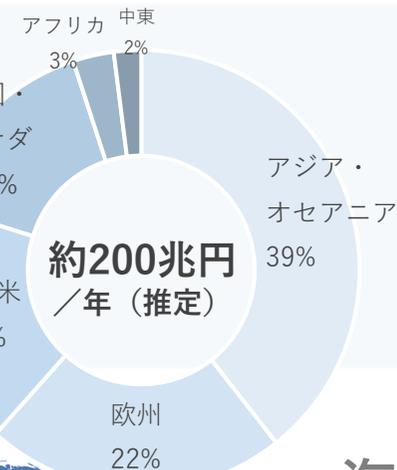
長寿命化工事
耐震補強工事

中・小型工事

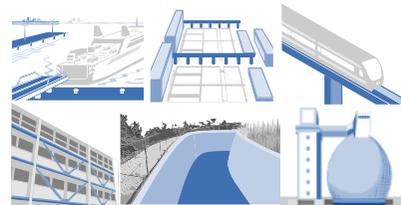
国交省 PPP/PFI
地方自治体 その他民間

各種
メンテナンス工事

その他の
インフラ構造物



国内
メンテナンス市場



海外
メンテナンス市場

(出所：国土交通省 資料)

Appendix



ショーボンドグループは、「『社会資本を良好な状態で次世代に引継ぐ』との使命感のもと、メンテナンス業界のトップランナーとしての高度な技術開発力で、豊かで安全な社会の実現に貢献する」ことを企業理念に掲げています。この企業理念を実現するためには、ステークホルダーの皆様との協力により、サステナビリティの取り組みを推進していくことが不可欠であると考えています。

当社グループでは、様々な社会課題の中から、SDGs達成への貢献とグループ企業理念の実践に向けて優先的に取り組むべき課題として、4つのマテリアリティを特定しています。今般、マテリアリティに基づく取り組みを継続的に実施し、中長期的な企業価値の向上と持続可能な社会の形成に貢献するため、「サステナビリティ方針」を策定しました。当社グループは、ESG推進室を中心に、当方針に基づいてサステナビリティの取り組みを推進していきます。

サステナビリティ方針

組織力を活かした総合メンテナンス

S 総合メンテナンス（調査・設計・施工）体制による安全・安心な社会の実現

- 安全性が求められるインフラ構造物において、調査・設計・施工のあらゆるメンテナンス工程で、お取引先との連携とグループ各社の総合力を結集し、質の高いサービスを提供します。
- メンテナンス専門の強みを活かして、自然災害等にも備えたインフラの維持修繕・補強に貢献します。

S 労働安全衛生の確保

- 「人命の尊重、安全な施工はすべてに優先する」との理念のもと、建設や製造の現場においては、労働災害ゼロを目指し、予想されるリスクの低減等を通じて労働安全衛生の確保を徹底します。
- 長時間労働の是正やメンタルヘルスのケア等を通じて、社員の心身の健康維持に取り組みます。



技術開発を通じた生産性の向上

S 社会課題に対応した技術の開発と普及

- 化学技術と土木技術の融合による高度な技術力を活かし、環境・社会に配慮した新材料・新工法の開発を推進します。

S 人材の確保と育成

- 採用活動においては多様な人材が集まるよう最大限工夫をするとともに、差別のない公正な選考を行います。
- 当社グループの持続的な成長を担う中核人材を育成していくための仕組みや体制を整備することで、社員一人ひとりが成長できる機会を提供します。
- 適正な評価制度の導入等を通じて、若年社員の積極的な登用を図るとともに、シニア人材に活躍の場を提供することで、優秀な人材の定着と知の継承を促進します。

S 生産性向上への取り組み

- 技術力の向上や効率的な事業運営により付加価値を増加させるとともに、働き方改革に取り組み生産性の向上に繋がります。
- 生産性向上を企図した機器の積極導入を通じて、調査・設計・施工等のすべてのプロセスにおいて、業務の効率化を図っていきます。

S 健全な雇用・労使関係の維持

- 労働関係の法令遵守はもちろんのこと、協力会社の従業員も含めて働きやすい環境を実現するための制度や仕組みを構築します。
- 労使間対話の促進や相談窓口の整備等を通じて、健全な労使関係の構築を図っていきます。

健全なガバナンスの強化

G コーポレートガバナンス体制の強化

- ステークホルダーからの要請に応え、持続的な成長を実現するために、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を行うコーポレートガバナンス体制を構築していきます。

G リスクマネジメントの強化

- 内部統制の整備やリスクカルチャーの醸成、ESGの要素を盛り込んだリスクの特定や評価およびモニタリングを行うことで、リスクに対して適切な措置を講じます。

G 法令の遵守と公正な事業慣行の実現

- コンプライアンスを徹底するように社員に対して教育・研修を行うとともに、モニタリング等の体制を構築し、公正な事業慣行を推進します。

G 情報セキュリティの確保

- システムの導入等を通じて情報セキュリティ体制を構築し、個人情報等の機密情報の保護を徹底するとともに、社員に対して適切な教育・研修を実施し、意識の向上を図ります。

G 知的財産権の適切な管理

- 自社の知的財産権を適切に保護・管理するとともに、他者の権利を侵害しないよう調査及び手続きを定めます。



持続可能な都市づくりへの貢献

E 持続可能な資源の利用

- ▶ 高度なメンテナンス技術を活かして、インフラの長寿命化を促進することで、公共資源の持続可能性に貢献します。
- ▶ サプライチェーン全体を通じて再生資源や再生部品の利用を促進し、持続可能性に配慮した資源の利用を推進することで、循環型社会の実現に貢献していきます。

E 廃棄物の適正な管理

- ▶ 事業活動に伴って生じる廃棄物を適正に管理し、適切な処理を行います。

E 気候変動への対策

- ▶ 事業活動から生じる温室効果ガスの継続的な削減を通じて、気候変動の緩和に努めます。
- ▶ インフラの長寿命化が温室効果ガスの削減に寄与するという認識のもと、メンテナンス専門の強みを活かして、本業を通じた気候変動の緩和に取り組んでいきます。
- ▶ 気象災害に備えたインフラ補強等の事業を展開することで、社会全体の気候変動への適応に貢献します。

E プロジェクトの環境影響評価

- ▶ プロジェクトの実施においては、プロジェクトの環境要件を遵守し、環境・社会に与える影響を最小化するための措置を講じていきます。

S 人口減少（少子高齢化）社会における持続的な都市の開発

- ▶ 人口減少社会におけるインフラ・公共施設の老朽化の問題に対して、メンテナンスの力を用いて、実効性のあるソリューションを提供します。

S 顧客・消費者の安全衛生

- ▶ メンテナンスを行ったインフラを利用する地域住民の皆様や、工事材料を販売したお取引先様の安全衛生を確保するために必要なマネジメント体制を構築するとともに、問題が発生した場合には適切に対応します。

S 地域社会との関係構築

- ▶ インフラが地域社会に対して重大な影響を与え得ることを認識し、地域社会からの信頼を得るために緊密なコミュニケーションを行います。

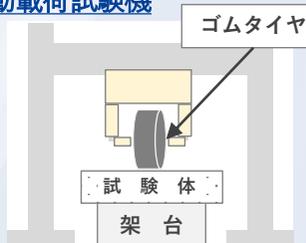


■ 化学研究棟内部



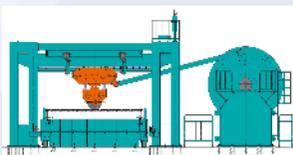
■ 構造物大型実験棟内部

■ ゴムタイヤ式輪荷重移動載荷試験機



トラックタイヤを模した輪荷重を橋梁床版上に移動させ、橋梁床版の疲労耐久性や補強効果の確認をする施設です。試験時間はかかりますが、実構造物と同様の損傷が再現できます。

■ 鉄輪式輪荷重移動載荷試験機



ゴムタイヤの代わりに鉄輪を使用する試験機です。輪荷重が大きく、走行速度が早いいため、試験時間の大幅な短縮が可能です。

■ 環境制御型疲労試験機



任意に設定した温度および湿度の部屋で、補強部材の疲労試験を行います。この疲労試験により、種々の環境下における補修・補強効果がわかります。

■ 複合サイクル試験機



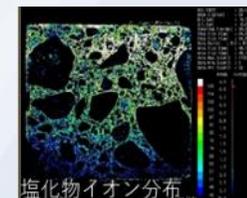
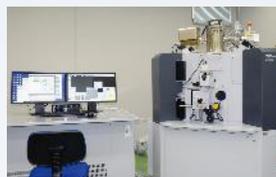
複合サイクル試験機は、塩水噴霧・乾燥・湿潤・塩水浸漬・低温の環境条件を組み合わせることで実環境を再現し、めっきや特殊塗料の耐久性を評価します。

■ 表面・界面切削分析装置



鋭利な切刃を用いて高分子等の試験体表面より超低速で切削および剥離を行い、塗膜等の強さを測定する装置です。切刃の精密な制御によりマイクロメートル単位での測定が可能です。

■ 電子線マイクロアナライザー



コンクリートの断面に電子線を照射することで劣化因子（塩分、硫酸、炭酸ガス等）の分布状況を見ることが出来ます。海岸部の栈橋や橋梁の劣化診断、補修効果の検証に使われます。

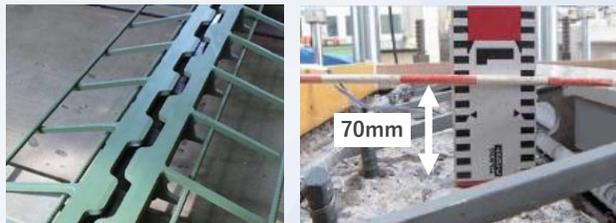
■ 全天候試験室



各種気象条件を人工的に再現できます。-20℃から+60℃までの温度と湿度条件、また、日射、降雨、降雪などの条件下における、補修材料の耐久性や作業性を調べます。

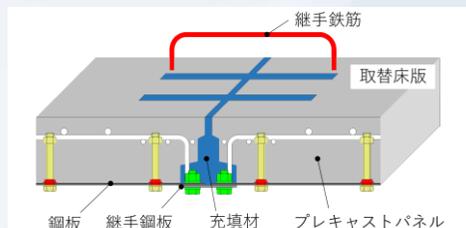


構造系 『大型舗装内伸縮装置』



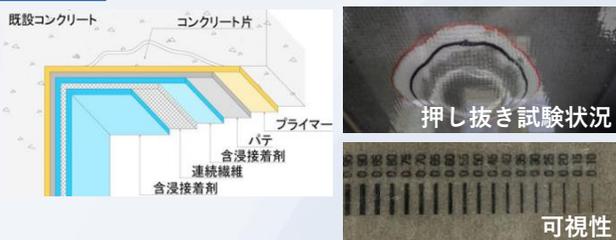
既設コンクリート床版を傷つけず、アスファルト舗装内に設置できる伸縮量50mmまで対応可能な鋼製伸縮装置です。

構造系 『床版取替工法』



合成床版のずれ止めを、特殊高力ボルトから汎用性の高い普通ボルトに変更し、継手部の現場作業を簡素化しコスト低減を図った夜間施工・昼間解放用の取替床版です。

有機系 『透明な高性能剥落対策工法』



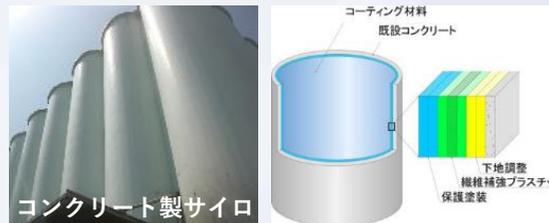
高い透明性を有する高性能コンクリート剥落対策工法です。透明なため、維持管理性に優れ、 -30°C ~ 50°C の温度域で使用することが可能です。

有機系 『極低温用接着剤』



-25°C でも施工可能な接着剤です。冷凍倉庫のような氷点下環境でも注入作業が可能で、速やかに硬化します。施設を運営しながら耐震補強の施工が可能です。

有機系 『サイロ補修工法』



サイロ内面の補修に特化した補修工法です。コーティング材料は貯蔵する粉体の摩擦に耐え、圧力差によるサイロの膨張収縮に抵抗し、ひび割れを発生させません。

無機系 『道路橋床版の長寿命化』



2種類の接着剤塗布と、低弾性ラテックス改質超速硬コンクリートの橋面舗装により、橋梁の長寿命化を実現します。

無機系 『簡単に打設出来る超速硬コンクリート』



特殊な施工機械を使わず、簡単に超速硬コンクリートを打設できるシステムです。工事による交通規制時間を短縮できます。

無機系 『施工性に優れた断面修復材』



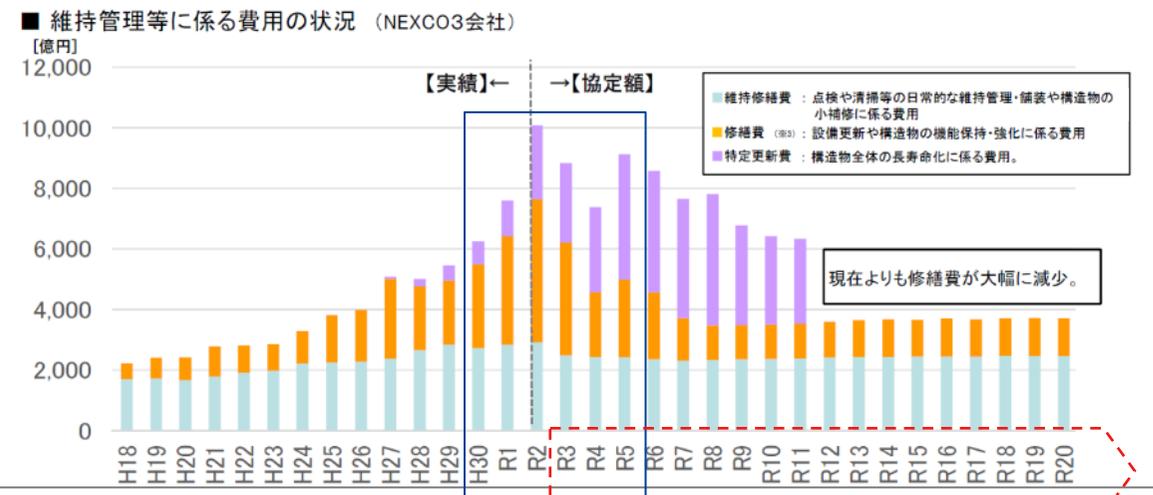
コテによる施工が楽々行えるポリマーセメント系断面修復材です。壁面で4cmも厚付けが可能です。プレミックスタイプのため、水を加えるだけで製造可能です。



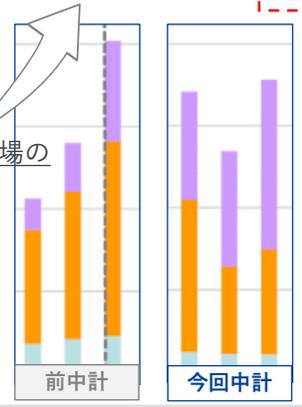
2021年1月 社会資本整備審議会 道路分科会
第47回 国土幹線道路部会 資料

4. 今後の維持管理の課題 < 維持管理等に係る費用の状況 >

- 近年、物価高騰の影響や耐震補強事業の実施、省令点検に対応した補修の強化等により、維持管理等に係る費用が増加。
- 特定更新等工事完了後（R12年度以降）の維持管理等に係る費用は、現在よりも減少する計画。
- 予防保全に向けた取組みの推進や災害への対応の強化、設備投資・設備更新費用の増大など、これまで説明してきた内容を実施する事業費の確保が必要。



インフラメンテナンス市場の規模が大きく拡大

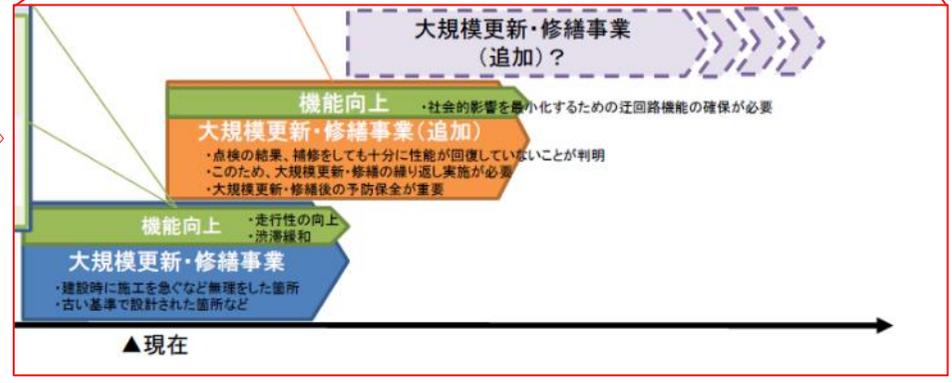


大規模更新・修繕事業の追加が進行中

2021年7月 社会資本整備審議会 道路分科会
第51回 国土幹線道路部会 資料

更新事業の現状について

- H26年以降、高速道路の大規模更新・修繕事業に着手しているが、5年に1度の省令点検の結果等を踏まえ、事業の追加の必要性が明らかになっている。
- 走行性の向上や渋滞緩和等の観点から、更新事業に合わせた機能向上も実施する必要がある。

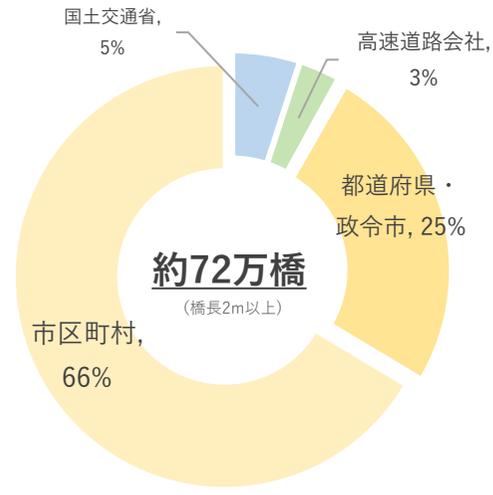




橋梁

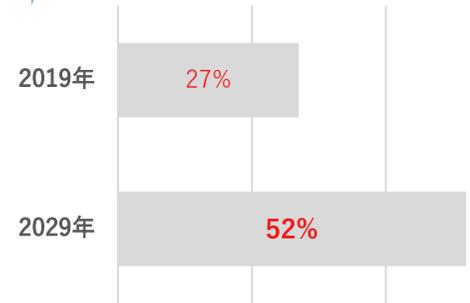


管理者別



- 建設後50年を経過した橋梁の割合は、2019年は約27%であるのに対し、10年後には約52%に急増。
- この他に建設年度が不明の道路橋が全国で約23万橋あり、これらのお大半が市区町村管理の橋長15m未満の橋梁。

建設後50年経過する橋梁数



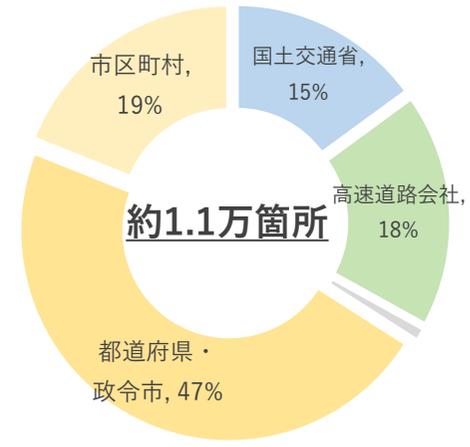
建設年度不明橋梁 (約23万橋) 内訳



トンネル

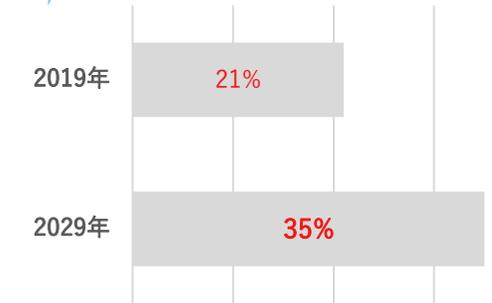


管理者別

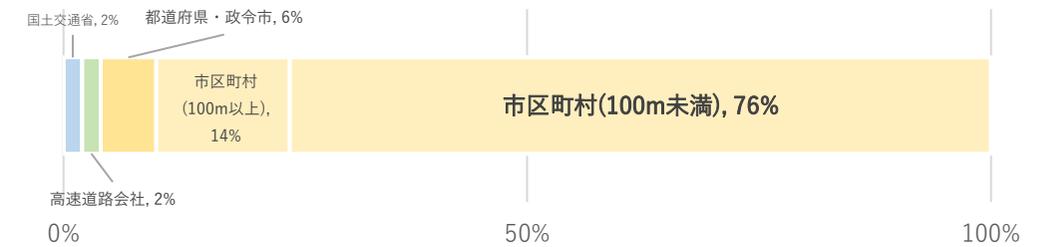


- 建設後50年を経過したトンネルの割合は、2019年は約21%であるのに対し、10年後には約35%に増加。
- 建設後50年を経過した延長100m未満のトンネルの割合は、10年後に約71%に増加。

建設後50年経過するトンネル数



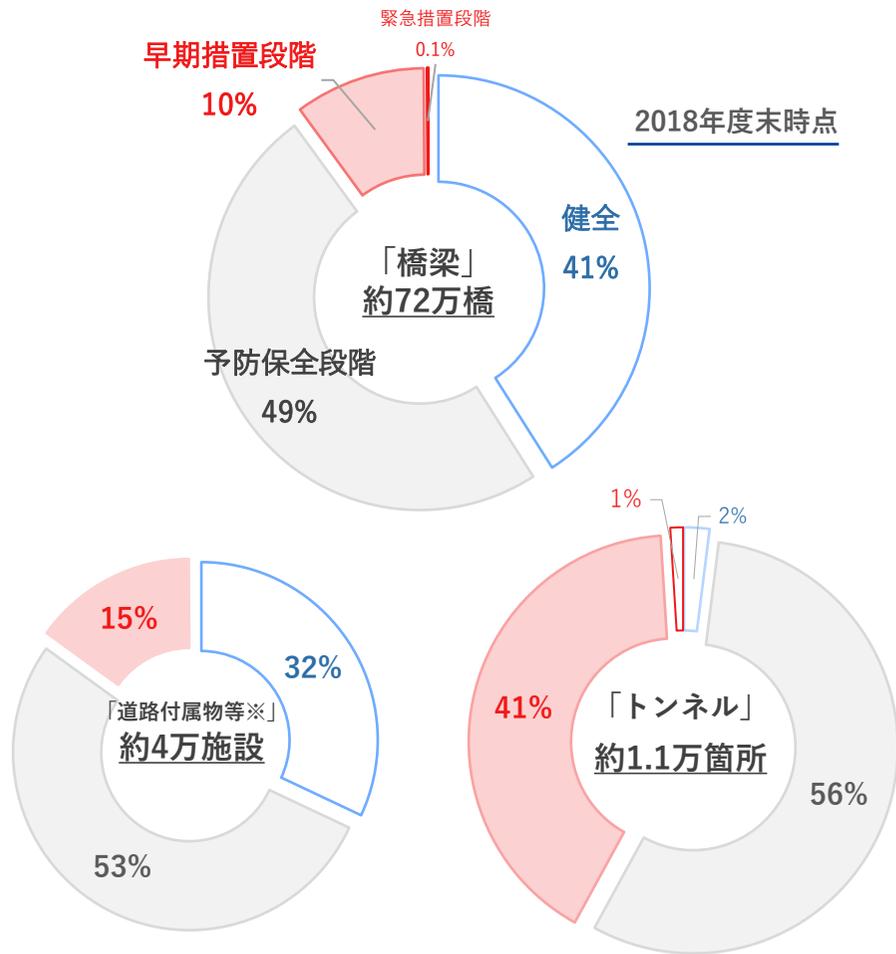
建設年度不明トンネル (約400箇所) 内訳



(出所：国土交通省 道路メンテナンス年報 令和元年8月)



インフラの健全性－判定区分別



※道路付属物等：
シェッド・大型カルバート、横断歩道橋、門型標識等

全ての道路管理者は、2013年の道路法改正等を受け、2014年度より5年に1回の頻度で近接目視による点検を実施。2018年度に1巡目が終了。

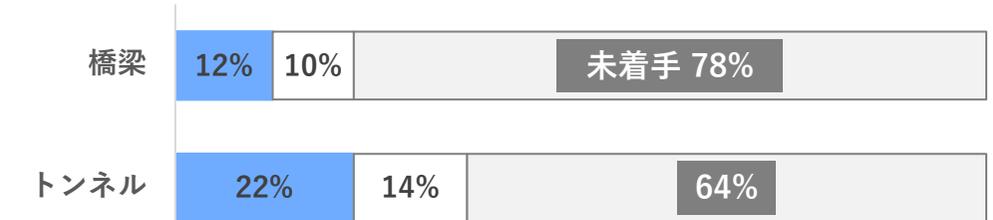
I 健全	構造物の機能に支障が生じていない状態。
II 予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態。
III 早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態。
IV 緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態。

予防保全対象 修繕進捗

■ 修繕完了 □ 着手済



事後保全対象 修繕進捗



(出所：国土交通省 道路メンテナンス年報 令和元年8月)

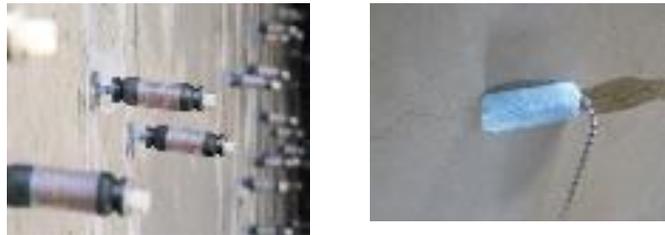


補修

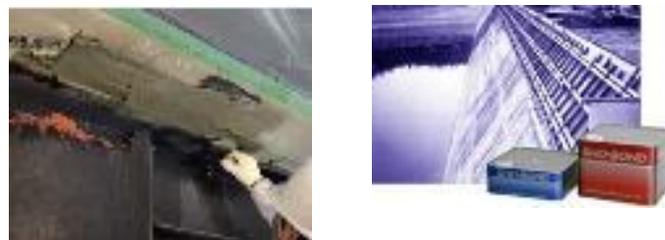
舗装・路面の緊急補修



コンクリートひび割れ補修

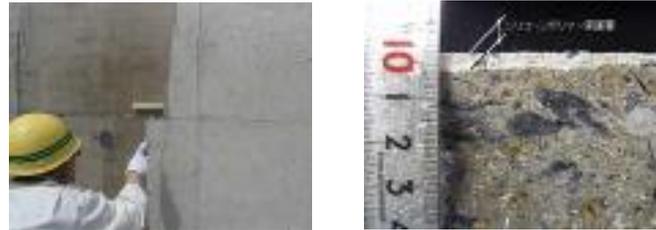


断面修復材・接着剤



予防

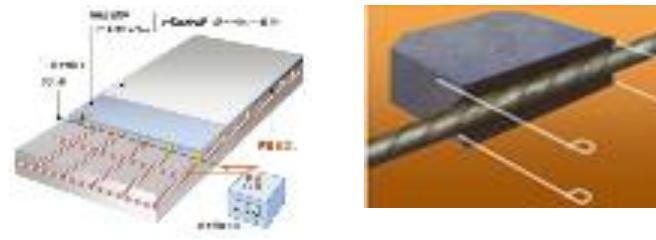
コンクリート劣化防止



はく落防止



電気防食（塩害対策）



補強

床版取替



補強工法



耐震補強





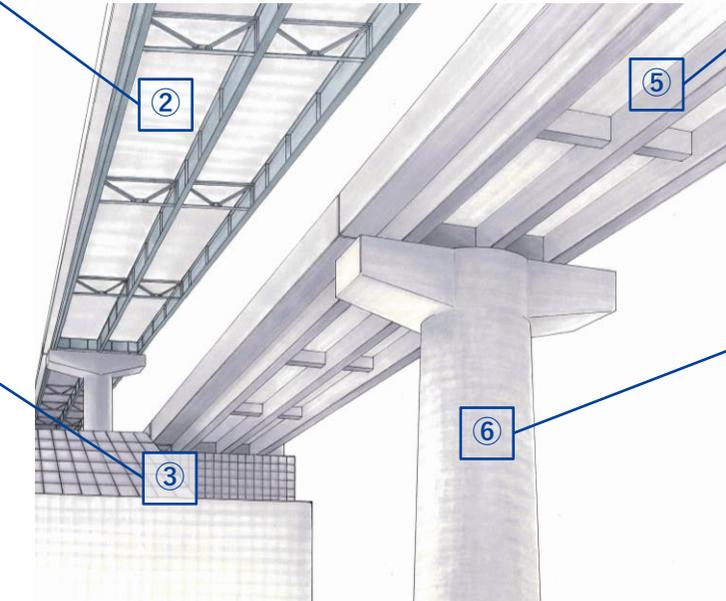
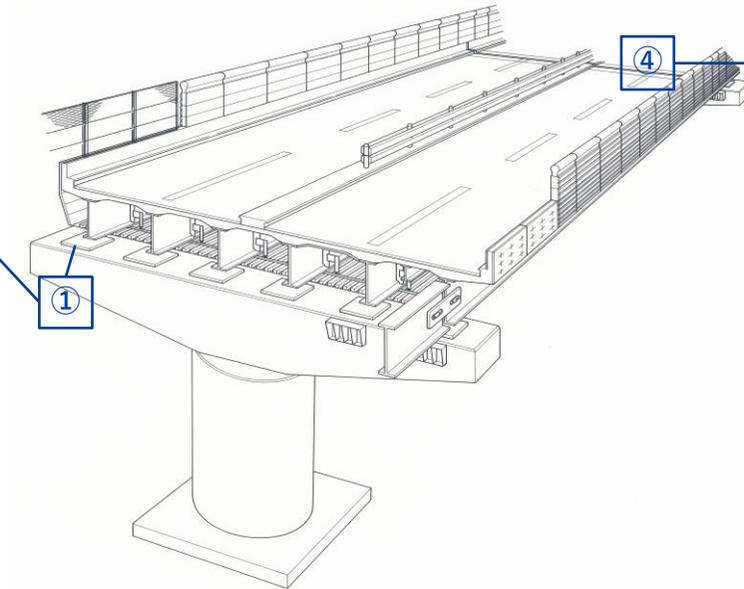
① 支承補修・取替



② 裏面吸音板



③ 緩衝チェーン



④ 伸縮継手装置



⑤ 剝落防止シート



⑥ 橋脚RC巻立て



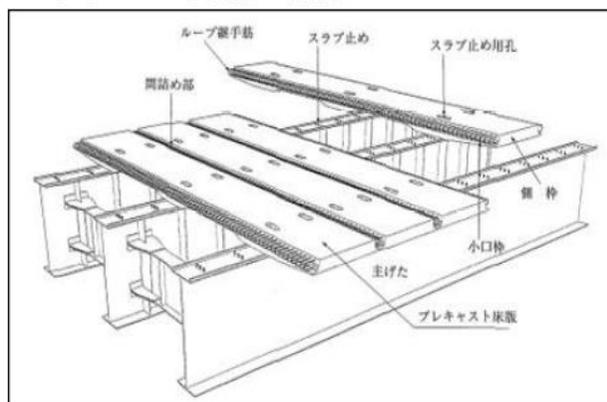


高速道路：大規模更新工事のイラスト

大規模更新実施イメージ

【対面通行規制等による鉄筋コンクリート床版のプレレストコンクリート床版への取替】

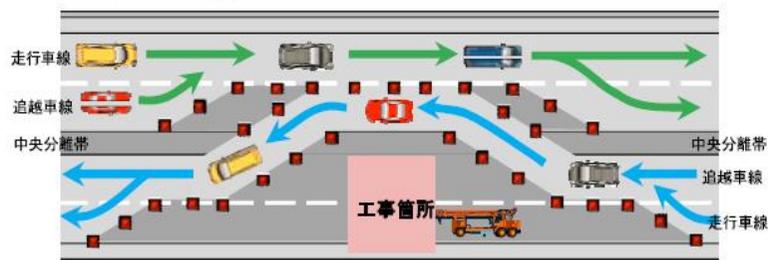
プレキャストPC床版の構造



床版取替え工事のイメージ



対面通行規制のイメージ



(出所：NEXCO3社HPより)



高速道路：大規模修繕工事のイラスト

上部工（RC床版上面）

床版上面コンクリートの剥離・鉄筋腐食



【対策例】 高機能防水工^(※) など

舗装

高機能防水

(※) 塗膜系防水材料

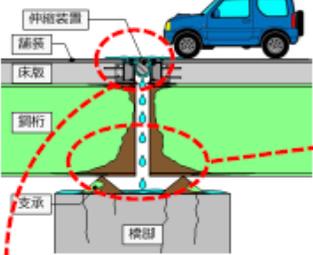
(※) 浸透型防水材料

床版

※舗装の打ち替え周期を考慮した耐久性を有する床版防水

下部工（橋脚・桁端部）

伸縮装置からの漏水により橋脚・桁端部へ雨水等が流出



伸縮装置からの漏水による桁端部や支承の錆・腐食



【対策例】 桁端部塗防食塗装



伸縮装置非排水構造の改良など漏水しない構造への改良・措置を実施。

上部工（RC床版下面）

格子状（2方向）のひび割れ



【対策例】 RC床版下面補強工^(※) など

舗装

床版

シート補強

床版

※：表面被覆工法等による補強工法

橋脚梁部の浮き・はく離・ひび割れ・錆汁




コンクリート片のはく落防止を兼ねた表面保護を実施。

6

(出所：名古屋高速道路公社資料より)



免責事項

本資料に記載されている業績予想および将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。そのため、実際の業績等が様々な要因により記載されている内容と異なる可能性があります。また、本資料は、当社の業績および今後の経営戦略に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。